

木田雅成「連分数」近代科学社
訂正および変更

2022年3月20日

第一版第一刷

p.4 問 1.1 (iii) $C(a) \cap C(b) = \emptyset \rightarrow C(a) \cap C(b) \neq \emptyset$

p.9 1.1 右側の行列の (1, 1) 成分 : 77 \rightarrow 89

p.10 1.1 「(2.4) 両辺の行列式」 \rightarrow 「(2.4) の両辺の行列式」

p.32 命題 4.8 の証明の 1.4 ($n \geq 1$) \rightarrow ($n > 1$)

p.34 補注 4.10, 1.3 「その手前の近似分数の」 \rightarrow 「近似分数 p_n/q_n による」

p.36 3つ目の● 「西暦が 400 で」 \rightarrow 「ただし西暦が 400 で」

p.42 側注 17 この側注を次のように変更する. 「連分数 $[1; 2, \overline{1, 2}]$ のように循環節が最初から始まる場合は, セミコロンを省略して $\overline{[1, 2]}$ と書くことにする.」

p.44 1.8 2番目の = を $:=$ にした方がよいという意見があると思うが, 私には煩わしく感じられる.

p.52 下から 1.9 $\begin{vmatrix} 1 & \alpha \\ 1 & \alpha' \end{vmatrix} \rightarrow \begin{vmatrix} 1 & \alpha \\ 1 & \alpha' \end{vmatrix}^2$

p.54 命題 6.13 の証明の 1 行目 「 α が $ax^2 + bx + c$ の根であるとする」と \rightarrow 「 α は $ax^2 + bx + c$ の根となるので」

p.72 定理 7.8 の証明の 4 行目 「 $\xi < 0, \eta < 0$ のみたすもの」 \rightarrow 「 $\xi < 0, \eta < 0$ をみたすもの」

p.94 例 8.24 の前に次の一文を挿入する. 「Fermat の 2 平方和定理にはいろいろな証明が知られているが, この証明では $p = x^2 + y^2$ の解が連分数展開から具体的に求められるのがおもしろい.」

p.95 2つ目の● 「判別式 D の」 \rightarrow 「正の判別式 D の」

足立恒雄先生をはじめ，間違いを指摘くださったみなさまに感謝いたします。